大峰山奥駈道縦走　吉野から阿須迦利岳

日程：10 月 31 日～11 月 3 日
メンバー：M上(L)　N口　A上　N谷　ゲストＴ木　Ｈ高

奈良に転居した山仲間のＨ高さんと久々にどこか歩きたいと思い大峰山奥駈道の縦走を計画しましたら 6 名での山行になりました。

31 日。前日奈良入り組と夜行バス組の 4 名が早朝の橿原神宮前駅で集合。まず吉野駅に向かいました。予約したタクシーで金峰神社まで。金峰神社から奥駈の始まりです。
好天の中、世界遺産認定後にできた石の標識に沿って歩くと少し寄り道で西行法師の西行庵に。そこから奥駈のコースに戻り助四郎尾根を山道と並行して走る車道を交互に進みましたがやがて山道だけになり吉野杉の林の中の道を進み最初の目標の四寸岩山に。しかしススキに覆われた山道で四寸岩山は少し外れているため気が付かず通り過ぎてしまいました。山を下ると二蔵宿小屋(避難小屋で冬季は閉鎖)に。小屋はコロナのためすでに閉鎖となっているため外で休憩。
小屋から本日最終ピーク大天井ヶ岳に登り、下ると女人結界門のある五番関に到着しました。日本にただ一つ残る女性禁制の山上ヶ岳の北の入り口です。しかし今回は女性メンバーが主力のため山上ヶ岳の通過は遠慮することにしました。
五番関から洞川温泉に下る山道を小一時間下ると車道に。ここから洞川まで道路歩きですが 2 日目から山行に加わる T 木さんと H 高さんが先に予約した宿に入ったおかげで宿の車が迎えに来てくれて楽ができました。今回参加の 6 名がそろいにぎやかに。
個人的には洞川は 30 数年ぶりで以前はひっそりした山上ヶ岳詣での旅館街でしたが温泉を掘って今や洞川温泉に変身し旅館街がにぎやかになっていました。早速もらった地域クーポン券で買い物を。私とＴ木はさっそく酒の購入に走りましたが他の人は翌日のお昼のために作りたての柿葉寿司を購入してくれました。

1 日。早朝 6 時に予約したタクシーで大峰山を貫く行者還トンネルを通って和佐又のキャンプ場に向かいました。道路には紅葉真っ盛りで早朝なのに写真を撮りに来た人たちが集まっています。7 時過ぎ到着すると和佐又にあった山小屋は立て直しのため解体されていました。
山上ヶ岳をパスしたので南の女人結界門の先にある大普賢岳から縦走が始まりますがこの登りはなかなかきつい。大きな岩壁の下には所々祠があり神仏の山を感じながら壁につけられたハシゴを登り続け 10 時過ぎに山頂に到着しました。昨日に続き天候はまずまずですが一気に高度を上げてきたので山頂でしばらく休憩。大普賢岳を和佐又から登るなら山上ヶ岳を超えて来たほうが楽だったような気がしました。七曜岳など四つほどピークを越えて行きますが鎖やハシゴ有で修行の道を感じさせるところが続きます。
お昼過ぎ行者還避難小屋に到着。しかし本日の宿、弥山小屋までまだ 4 時間はかかりますので小屋に電話して到着は 18 時近くになることを連絡しました。ここからのんびり歩くにはなかなか良い所ですが天候も下りぎみで結果的に早足に。元気な先発 3 名が 18 時前に到着。後の 3 名も暗くなった山道を 18 時を少し過ぎた時間に到着しました。

弥山小屋は山上ヶ岳の宿坊を外せば唯一の営業小屋でストーブもついて食後もゆったりできますが部屋にはすでに就寝中の他パーティーもいるので静かに静かに。

2 日。続いた好天も本日は雨ですが出発時はあがっていました。1 時間ほど登ると百名山の八経ヶ岳ですが残念ながら霧の中。でもここは日本一雨の多い山塊ですから致し方なしです。そこから五鈷峰などピークがいくつか続きますが尾根の西側をトラバース気味に上り下りを続けて 2 時間ほど歩くと楊枝ヶ宿小屋に到着しました。

本日の予定宿、深仙避難小屋の水場が秋は枯れる事を想定して水の確保に。しかし楊枝の水場も秋は水量が少なく汲むのに各自 10 分くらいかかりました。

本日はそれほど長い距離ではないのですが、それからも仏生ヶ岳、孔雀岳、200 名山の釈迦ヶ岳と続きます。途中から雨脚も強くなり釈迦ヶ岳の下りを続けて深仙の祠の屋根が見えた時はほっとしました。以前の記憶であまり泊まり心地を期待していなかった深仙避難小屋も手入れされていて、それに我々だけでしたので遠慮なく濡れ物も乾してゆっくりすることができました。やはり水はありませんでしたが雨のなか岩を滴る水をH高さんがいっぱい汲んでくれて不住なし。今回は各自個食スタイルでしたので 2 台用意したガスを使い各々ペースで食事しました。

3 日。風が強いものの晴れました。日の出とともに最終日の出発です。一つピークを超えると太古ノ辻。ここは奥駈を南北に分けるところで前鬼の宿に下る道があります。普通奥駈を 2 回に分けるとよくここが分岐になります。

今までの登り下りが少し穏やかになり笹原に枯れ木がぽつぽつと立ち、なかなか風情を感じさせる山道に変わってゆきます。地蔵岳、涅槃岳、証誠無漏岳と続き今回最後の阿須迦利岳に。標高が下がり林の中の尾根を下ると持経ノ宿小屋に到着しました。

小屋までは車で入れる白谷池郷林道があるので小屋の手入れをしている人が来られていました。途中携帯が通ずるところで熊野市のタクシー会社に途中のゲートまで迎えを頼んだので休憩後林道を下りますがゲートを過ぎてもタクシーが見当たりません。またしばらく下りやっとタクシーと会うことができました。どうもとぎれとぎれの通話で場所がうまく伝わっていなかったようです。

1 時間ちかく走って熊野市駅近くの小さな銭湯に到着。ひと風呂浴びて夕刻の特急で名古屋に向かい山行が終わりました。

奥駈道は普通に歩くと山中 5 泊は必要で現役の方には長い休暇が必要になります。今回は 10 月 31 日から 11 月 3 日の休日を利用して 4 日間で奥駈の約 3 分の 2 ほどを歩きました。残りの熊野本宮までの道は当初 11 月 21 日からの 3 日間の連休を予定していましたがコロナの影響で熊野方面に行く夜行バスが走っていないため旨く計画が立てられなくなりしばらく伸ばすことになりました。熊野本宮まではシロヤシオの時期までお預けです。

M上記